



TITLE:

花山だより(8月) (續日食報告號)

AUTHOR(S):

月斗

---

CITATION:

月斗. 花山だより(8月) (續日食報告號). 天界 1936, 16(185): 453-453

ISSUE DATE:

1936-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167321>

RIGHT:

## 花 山 だ よ り (8月)

7月25日は協會の例會が花山で開かれた。荒木(健)氏の枝幸の體驗談、木邊氏の中頓別の話に次いで、高城氏の遠輕土産話があり、更に公文氏の呼瑪雜談、稻葉氏のオムスク、最後に山本教授の總括的御話しがあつた。終つて大阪の津田氏撮す所の16耗映寫に先だつて、氏の日食觀、映畫の説明は頗る興味深く拜聽した。北海道各觀測隊の模様、特に第3班觀測隊の高城氏の活躍實況は面白く、望遠鏡の筒先に吊り下げたテルテル坊主も何だか笑へ無い様な眞剣な氣持を與へた。夜に入つて一同天體觀測或は月に、木星に、珍客ベルテヤ1彗星に楽しい一時を過した。

月末山本教授、進さん、稻葉氏、公文氏等今度購入した天頂儀の組立てをする。天文書に見える米國 Fauth 製品で、品こそ古いが、堂々たるもので、部分品にも故障無く一同安心する。何れ新裝の移動家屋に据付けられて、利用される事とならう。

8月1日、今度大阪に工事進捗中のプラネタリウム係となる筈の大阪電氣局技師、清水、中島兩氏花山に來臺、本月一杯花山に滞在して實地に諸方面を研究される事になつた。4日は今度オムスクの日食觀測の模様を収めた9耗半を映寫。山本教授、稻葉助手の活動狀況を拜見したが、惜しい事には僅か2分間で全卷の終り、殘部は何れ濱田氏より送られるとの事である。

Peltier 彗星は其後次第に明るくなり、肉眼で直ぐに看取される様になつたが南方へ急速に移動し7日には南天低く、クツク機では之が最後の觀望、稻葉氏は雲の時間を待つて測微尺觀測、山本進さんはカメラに収めた。愈々之が最後の觀測かと思へば急に惜別の感を催す。本月に入つて山本教授、稻葉氏は B. K 第2に天文を放送する。荒木(健)氏も追つて放送ある筈。

今度恒星社の土居氏が天文講座を出版する豫定で、山本教授以下教室關係の全員が執筆される運びである。夫々の専門を分擔して一般天文愛好家にとつては、好個の入門書並びに必携書を提供する目的とある。何れ詳細が發表される事であらう。最後に讀者諸兄の御健康を祝して。

8 月 15 日 (月 斗 生)